

梅雨は何処(いずこ)へ・・・

皆さん、こんにちは。もう7月になってしまいましたね。1年の半分が終わってしまった・・・ということになります。いやはや1か月の過ぎるのが早いこと早いこと。移ろいの速さについて行けませ～ん(笑)

さて皆さん、7月7日と言えば七夕ですね。機織(はたお)りの仕事をしていて働き者の織姫(おりひめ)と、牛の世話をしているしっかり者の彦星(ひこぼし)のお話で有名です。では、七夕の前日の6日は何の日か知っていますか。かれこれもう40年近くも前(1987年5月8日初版発行)の話になるのですが、俵(たわら)万智(まち)さんという人の短歌集が空前の大ヒット(今年5月までの累計発行部数は285万部)となり、特にその中の一句

「この味がいいね」と君が言ったから 7月6日はサラダ記念日
の歌が大きな反響を呼びました。サラダの味付けを恋人にほめられた女性が、そのうれしさを記念日にして留めたいという想いを歌ったものですが、何気ない生活の一場面が若々しく爽やかな感性で歌われており、当時、何か良いことがあると何でも「〇〇記念日」とか「〇〇の日」とするのが一種の社会現象になりました。ちなみに日本には「おむすびの日(1/17)」、「図書館記念日(4/30)」、「納豆の日(7/10)」、「駅弁記念日(7/16)」、「ショートケーキの日(毎月22日)」、「学校給食記念日(12/24)」など、かなりたくさん存在しています。

大洲中図書館には俵万智さんの図書が10冊以上あります。気になる方は図書館までどうぞ。親しみやすい言葉選びでわかりやすく、きっと、爽(さわ)やかな気分になれますよ。

第1回目読書記録 優秀作品決定！

6月から始まった今年度第1回目の「読書記録」の期間が終了し、各クラス2名の優秀作品が決定しました。優秀作品については職員室と図書館をつなぐ廊下の掲示板に来週中に掲示します。楽しみにしていて下さいね。

このイベントは、昨年度から始まったものですが、回を重ねるごとに作品の質がどんどん上がっていき、最後の回の作品の完成度はそれはもう素晴らしく、力作ばかりでした。私はまだ今回の優秀作品を見ていないので、今年はどんな作品があるのかがとても楽しみです。乞(こ)うご期待です！

【新規購入本のお知らせ】*展示は16日(水曜日)を予定

・「江戸でバイトやってみた」 櫻庭(さくらば)由紀子 著

令和の少女・七緒(ななお)が、ひょんなことから江戸の街にタイムスリップ。身を寄せるのは口入(くちい)れ屋(江戸のハローワーク)。日本橋からはじまる女子高生のバイト生活。170年を超える時差に戸惑いながらも七緒とお江戸の人々が繰り広げる「大江戸タイムスリップバイト物語」。

さまざまなバイトに駆(か)り出されるも、人情味あふれる人々にかこまれて、お江戸の生活にすっかり馴染んでしまう七緒。しかし、元いた令和の生活も気になるところ。お江戸と令和が交わるなかで、七緒の心にも変化が見え始める。





・「県境マニアと行く くるっとふしぎ県境ツアー」 田仕雅淑(たしまさよし) 著

地図をじっと見ていると、なんともナゾだらけな県境が多々あります。そこにはいったい何があるのだろうか？そんな疑問に迫るべく、ナゾすぎる県境までの弾丸ツアー。さらに、歴史や過去の過程をひもときながら、そのウラに隠れたディープなエピソードも掘り起こす。イラストと写真も満載で、眺めるだけでも楽しめる。しかも、どのように訪ね歩けば効率的なのか、行程表までばっちり掲載。本書を持って、ナゾの県境を訪ね歩いてみよう！



・「みちかな草花のひみつ！季節のざっそう探検帳」 飯田 猛(たけし) 著

「雑草という名の植物はない！」この言葉を語ったのは、牧野富太郎(まきのとみたろう：近代植物分類学の権威)とも昭和天皇ともいわれています。人の望まれないところに生え、人の役に立たない邪魔な草を、いつからか丸ごと雑草と呼ぶようになりました。一方、日本人は古来から野に咲く雑草を愛でて(めでて：美しさを味わい、かわいがり、大切にすること)、その利用価値や存在価値を文化として生活の中に取り入れ大切にしてきました。本書では、四季それぞれの雑草の中でも、これだけは知っておきたい植物を厳選し、名前の由来、花の美しさ、生態の不思議など、雑草の知られざる魅力と秘密を紹介していきます。足元の自然に目を向けるきっかけになる一冊です。



・「美しい世界の線路 ユーロッパ編」 橋爪智之(ともゆき) 著

線路は美しい！ 複雑に入り組んだ線路はまるで「美術品」！ 日本では見ることのできないヨーロッパの美しい線路の数々をぜひご堪能(たんのう：十分に満足する)ください。チェコ在住の欧州鉄道フォトライター橋爪智之氏による、ヨーロッパに住んでいるからこそその貴重な線路写真・情報を詰め込んだ線路・分岐器の鑑賞図鑑です。線路の魅力を具体的な鑑賞ポイントを示しながら、優しくビジュアルで解説しています。



・「ずかん 数字」 清水洋美(ひろみ) 著

現代社会においてこの上なく重要なもの、それが「数字」。この数字、いったいどこからやってきたものなのでしょう？数字の歴史はとても古く、私たち人間は数字とともに歩んできたといっても過言ではありません。面白いのは、文明ごとに数字の考え方が少しずつ違うこと。文明や生活スタイルに合わせてさまざまな数字が考案され、あるものは滅び、あるものは現代にまで引き継がれました。この本は、そんな数字そのものに着目しました。しばしば難解になりがちな数字を、コミカルなイラストとわかりやすい説明で鋭く迫る1冊。親子で存分に楽しめる数字本の決定版です！



・「ずかん 路線バス大全」 加藤佳一 著

この本片手にバスでどこでもどこまでも行こう。バスという乗り物はもちろん、バスを支える人たちまでもがよくわかる、ビジュアルガイドの決定版です。路線バスの楽しみ方、バス路線の成り立ち、路線バスの車両、路線バスを支える人たち、という4つの切り口から、深くわかりやすく解説していきます。子供から大人まで、バス好きにはたまらない一冊です！

夏休みの長期貸出し期間にどうにか間に合った図書です。今回の図書は「技術評論社」という出版社のものに注目してみました。夏休みという長期学校休業期間中に普段とは違う何かを体験して欲しかったからです。調べ学習にはピッタリの図書だと思うので、是非手に取ってみて下さいね。